

イベント

国際交流センターでは年間を通して様々な国際交流イベントを行っています。開催のお知らせはHPをチェック！



参加待ってます！



オンライン国際交流

海外からの訪問団や福島県の視察を目的とした留学生が福島大学を訪れ、学内視察や授業への参加、日本文化体験を行います。2021年は様々なオンライン交流会を開催しました。

国際交流センター

国際交流の窓口として学生の皆さんのサポートや、イベント等の情報発信をしています。留学に関する相談は随時受け付けておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください！

窓口受付時間 月 - 金 9:00-12:30 13:30-17:00

☎ 024-503-3066

✉ ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

🌐 http://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp

MAILING LIST

各種情報を配信しています。

国際交流に興味のある方はぜひご登録ください。（本学の学生のみ）



QRコードよりメールを送信。
件名を「メーリングリスト登録希望」とし、学籍番号・
学年・氏名を記載してください。

国際交流の
第一歩！

Fukushima University International Center

FUIC vol.4

MAR.2022

福島大学
国際交流センター

FUKUSHIMA
AMBASSADORS
PROGRAM

福島を
世界に発信

BUDDY

楽しみながら
異文化交流

INTERNATIONAL EVENTS

イベントに参加しよう

LEARNING WITH
INTERNATIONAL STUDENTS
IN ENGLISH

留学生と共に
英語で学ぶ



福大から グローバル。

ここが、スタートライン。





海外の協定大学から福島に関心を持っている学生を招き、福島大学の日本人学生と共に県内各地を巡り、地域住民との交流を行いながら福島について英語で学ぶフィールドワークプログラムです。国際交流・異文化体験だけでなく、海外留学を目標とする学生の語学学習の意欲向上にもお勧めです。

福島の過去・現在・未来を英語で学ぶ



Fukushima Ambassadors Programは、被災地域の現状を世界中の学生たちに学んでもらう教育プログラムとして2012年6月に開始しました。参加者は日本人学生も加えると述べ800名以上にもなっており、これまで9つの国の大學生がプログラムに参加をしています。開始当初は海外で浸透してしまった福島に対する負のイメージの払拭や、情報災害を解消する事が目的でしたが、現在は、復興から得られる普遍的な知識や教訓を英語という共通ツールでディスカッションをする事で、「福島ならでは」のグローバル人材の育成を目指しています。参加者の多くはプログラムの後も学術活動や母国での福島に関する発表やPR活動などを積極的に行うなど、まさに福島の「アンバサダー」として、現在も世界各地と福島をつなぐ架け橋として活動を続けています。みなさんも、共に復興を学び、確信を持って福島を世界に伝えてみませんか。

国際交流センター マクマイケル・ウィリアム 先生



参加することで、
人として成長できました



このプログラムに参加することで正しい情報を調べたり、話を聞いたり、実際を探すことを学びました。SNSの時代には虚偽報道が広まりやすいですが、F.A.Pはメディアが見せていない福島の実際を教えてくれました。普通の講義ではなく、福島の様々な土地を訪れ、力強く生きている人々に会うことは素晴らしい経験で、多くのことを学ばせて頂きました。私は福島の物語を広く知ってもらうため、今も世界中の学生達と連絡を取り合いながら発信を続けています。ルーマニアのFukushima Ambassadorとしての誇りを持ちながら。

ルーマニア出身 ブルガリウ・ダニエラ さん

プログラムに参加した夏はかけがえのないものとなりました。留学生達と福島について学ぶだけではなく、ご飯を食べたり、プリクラやショッピングを楽しんだり、温泉に浸かりながら語り合い、国の文化を教えてもらったり…数え切れないほどの思い出ができました。帰国後にはメールを日本語で返信してくれた留学生がいて、とても感激しました。今回の培った絆をこれからも大切にしていきたいです。そして、この非常に貴重な経験を、今後はゼミ活動や自己学習プログラムでの地域活動に置き換え、グローカルな視点を大切に学びを深めていきたいです。

今後も英語力の向上を
目指したい！



経済経営学類 中村 優花 さん

バディ制度

留学生と日本人学生がペアとなり、学修と生活全般の支援を行う制度です。留学生が早く生活に慣れ充実した毎日を送ることができるよう、良き友人としてサポートをお願いします。基本的には日本語での活動となりますので、語学に自信のない方にも気軽にご参加頂けます。



どんな活動をするの？

- ・福島駅などでの出迎え
- ・入寮の手伝い
- ・生活用品の買出し
- ・市役所などの手続きサポート
- ・福島市内や大学の案内
- ・学修上のアドバイス など



到着時は大荷物



こんなメリットが！

- ・福島で留学気分が味わえる
- ・助け合うことで強い絆ができる
- ・友達の輪が大きく広がる
- ・語学力が向上する
- ・異文化交流ができる
- ・帰国後も友情が続していくなど



みんなで遊びに

バディ活動を行って良かったと思うことは、普段とは違う環境での体験ができたことです。バディと仲良くなると留学生同士の集まりにも誘われるようになり、非日常を体験することや新しい発見をすることができました。ドイツへ留学した時にはバディと再会して現地案内してもらったり、旅行中トラブルに遭遇した時は各地にいる仲間達に助けてもらいました。海外で頼れる仲間がいることは、この制度で得た大きな財産だったと思います。日本にいながら海外気分を味わいたい人、海外にも仲間を作りたい人は是非申し込みでみてはいかがでしょうか。

経済経営学類 鳩 和馬 さん (2020年度卒業)

Buddyになるには？

Buddyに登録

国際交流センターで配布する登録票に記入します。

登録者に連絡

活動日程や内容をメーリングリストでお知らせ。

マッチング

希望する条件を元にペアを決定します。

活動開始

対面後は個別に連絡を取り合い活動を行います。

留学先のドイツで
バディと再会



私はドイツ語を勉強しており「ぜひドイツ人と会って話してみたい」とのシンプルな理由で参加しました。当時の私は少しふさぎ込んでいましたが、バディの留学生は底抜けに明るく社交的で、レポートの添削や言語の教え合いをしたり、お酒を飲んで語り合ったり、気づけば彼女に影響された私の気持ちはかなり明るくなりました。語学面での心配は無用です。言語が上手く使えなくても一番大切なことは相手を知り自分を伝えようとすることなので問題ありません。少しでも海外の文化に興味のある人には、おすすめのプログラムです。もしかしたら私のように期待以上の結果を得られるかもしれません。

行政政策学類 高橋 尚史 さん (2020年度卒業)

底抜けに明るい
バディのCalorie!



*留学生一人に対して複数人のバディがつく場合があります。

Learning with International Students in English. at Fukudai

福大には日本人学生と留学生が交流しながら学ぶ科目があります。日本にいながら「英語で学ぶ」、そんな科目をいくつか紹介します。

英語で学ぶ科目

01

Understanding Post-Disaster Fukushima

2011年3月11日の東日本大震災から10年以上が経過していますが、福島第一原子力発電所事故は、世界の福島に対するイメージに影響を与え続けています。根拠のない放射能汚染や廃炉に関する懸念が、福島の世界的な評価の回復を妨げていることもあります。この授業は、震災後の福島の正しい姿を世界に向けて発信する上で不可欠となる基礎知識を学びたい日本人や留学生を対象としています。



違う国で生きてきた留学生は新しい発想・意見を教えてくれました。

食農学類 対馬 楓菜さん

福島大学に入学したのなら東日本大震災や復興を学びたいという思いがあったこと、また、私自身が力を入れている英語で学べる科目だったので、良い機会になると思い履修しました。日本語でもよく理解できていなかった事柄を英語で学ぶことで、講義を英語に触れる最大限の時間として活用し、より実用的な英語を聞くことができました。原発事故の説明で用いられる専門用語や震災関連の単語の英訳を学ぶこともできたので、非常に実のある時間だったを感じています。

違う国で生きてきた留学生から、日本の考えとは違う新しい発想・意見などを教えてもらうことができ、とても新鮮でした。また、私は東日本大震災が発生した日本に住んでいるにもかかわらず、震災に関する情報に対して真摯に向き合う姿勢をとってこなかったことを痛感させられました。英語を流暢に話せる方ばかりで、自分自身の英語へのモチベーションを高める良い機会になりました。

英語を1つのツールとして扱う授業は、語学の授業とは違った発見がたくさんあります。「英語で学ぶ」という形式は初めてだったので最初は戸惑いもありましたが、先生が作ってくれる単語帳なども活用して授業についていくことができました。少しでも英語に興味がある人はぜひ履修してみて下さい！

英語で学ぶ科目

02

国際共修 (Intercultural Co-Learning)

国際共修 (ICL) とは、言語的・文化的に異なる背景を持つ学生同士が、グループワークやプロジェクト型学習などの「意味ある交流」を通して、相互理解を深めることを目的とした授業のことです。この授業では、学生が4~5人のグループに分かれ、2019年に開始した海外発信事業「OurFukushima」に関連したプロジェクトワークを行なながら学習を進めます。



Differences can lead to deep and meaningful conversations.

イギリス・ノーサンブリア大学からの
交換留学生 Short Samuel さん

Despite having visited Japan many times, my knowledge of Fukushima was limited to what I saw on TV during the March 11th disaster over a decade ago. Wanting to better understand the prefecture and the people who live there, I took this class to broaden my view and understanding of Fukushima and its current situation.

Throughout this class I have learnt about a good balance of how Fukushima is represented in the media today, the lives of the people during/following the disaster, and the ongoing restoration work in Fukushima such as the nuclear power plant decommissioning. The class has also touched on various social issues, such as disaster response and how information is conveyed to the public.

Taking classes with Japanese students has been an enlightening experience. There is often a difference in views and perspective between Japanese students and us international students, however this has lead to some deep, meaningful conversations in class that otherwise wouldn't have happened. Furthermore, it has been a great opportunity for me to practice Japanese, and hopefully for them to practice English. I have been able to make good friends with many of the Japanese students.

I would recommend this class to anyone interested in better understanding the disaster situation in Fukushima during and following the disaster, and wanting to broaden their knowledge on radiation and social issues resulting from the disaster.

実用的な英語を実際に話すこと
で知識が定着します。

共生システム理工学類 三浦 あゆなさん

将来は研究の道に進むことを考えており、英語力向上のために受講しました。科学は世界共通であり、海外研究者との議論により、新たな視点を得て研究が進むこともあります。一つの謎の解明のために世界で最先端を作り上げていく、そんな場所に私もいたいと考えているため、初めの一歩として受講してみようと思った。最初の目的は英語力を伸ばすことでしたが、それ以外で学ぶことも非常に多かったです。

自分たちで考え、それを実行に移し、試行錯誤を繰り返す中でチームワークやプランニングについて学ぶことができましたし、SNSの運用も活動の主軸となるので、ビジネス的な視点を得ることにも繋がったと思います。何より実際の場で英語を話す経験ができるという点はやはり大きいと思います。私はC1プロジェクトという英語学習会にも参加しているのですが、そこで教わった実用的な英語（実際のコミュニケーションで必要な柔らかい言い回しや慣用句など）を積極的に使っています。学習にはアウトプットが一番だと思うので、知識の定着に最適な場です。日本の学生は英語力に不安を感じることがあるかもしれません、上手に話せなくても大丈夫だと思います。私もたくさん失敗しながらも、少しずつ成長を感じています。チャレンジングな気持ちで、ぜひ一緒に頑張りましょう！

You will gain new knowledge and make many great friends.

セルビア・ベオグラード大学からの
交換留学生 Marija Blagojević さん

Studying with Japanese students gave me a much better insight not only into Japanese culture, but also into mine. It was interesting to hear different perspectives on the same topic, and see how much our different cultural backgrounds influence our thinking and decision making. I think this is one of the reasons why this subject was so interesting, because every week we discovered something new about each other and about ourselves. There were also obstacles that we had to overcome, mostly in the form of a language barrier, but that also made us do our best and use all available methods to understand each other. I believe that this helped a lot in raising the self-confidence of all students, especially when it comes to talking about ideas and plans in a foreign language.

Anyone who joins this class will gain a lot of new useful knowledge and make many wonderful friends along the way, and it is an amazing opportunity for honing your language skills, whether you're learning English or Japanese. Also, being a part of the Our Fukushima project through this class is very inspiring, and one of the ways you can contribute to improving the image of Fukushima in the world, so I would recommend Intercultural Co-learning to anyone who would like to be a part of the change.

英語で学ぶ科目

03

Fukushima's History and Culture

福島県は2011年3月11日の震災以降世界から注目されることとなりましたが、近現代の日本を形成する上で歴史的に重要な役割を担ってきたことはあまり知られていません。この授業では、福島県の歴史を詳しく学習し、東北地方の生活の歴史的背景を学びます。



ネイティブ発話やスピード感を知ることで、留学の気分を味わえます。

人間発達文化学類 大和田 諒さん

今まで学んできた英語を活用して高度な学びを実現させたいと思い、この科目を履修することにしました。東日本大震災を起点とした、これまでの歩みについて知識を深められたことや、それに関するさまざまな意見、思いがあることを多くの視点から学ぶことができました。震災により被災者となった方や、災害とは無縁の環境で暮らしていた人たちのように、正反対な立場を持つ人たち同士の議論は、想像を超えるものになりとても興味深いです。

ネイティブの発話のスピード感や授業の雰囲気を知ることができる点は、この授業の最大のメリットだと感じています。英語で行われる授業のおかげで、お互いが留学生のような気分で受講できるため、留学の前段階として海外での授業を先取りできるような感覚です。留学経験はまだないので、想像でしかないですが、私たちと海外の授業の受け方の違いは感じられると思います！

当たり前が当たり前でなくなった震災において、さらに重なる試練の数々は重いものが多いですが、その分深く考えることができます。もちろん、先生がわかりやすく噛み砕いて解説してくださいるので、授業に入り込みやすいのだと思います。震災や、課題解決におけるジレンマに興味を感じている人にはぜひ受講をおすすめしたいです。

日本人と一緒に授業を受けることで、異文化交流ができました。

台湾・国立台北大学からの
交換留学生 蘆 翔淇さん

台北大学で日本の歴史を勉強したことがありました
が、「福島」のことは知らなかったので、どのような地域なのかを知るために履修しました。

この授業を通して、震災からどのようにして福島の人々が困難を乗り越えたのか、どんな挑戦をしているのか、その経験や方法を学びました。そして、福島の特別な祭りのことも学び、よく理解することができました。

そして、日本人学生と一緒に授業を受けることで、異文化交流も出来ました。学生たちは日本各地から来ているので、様々な方言も教えてもらい、興味深かったです。

この授業は、地域史、特に福島のことを更に知りたい学生にお勧めします。一般的には歴史を学ぶ時、日本全体の歴史を教わりますが、「Fukushima's History and Culture」は、地域史を主として、福島の三つの地域についてたくさんのこと学ぶことができます。私は初めて英語で日本の歴史を学んだので、良い経験になりました。